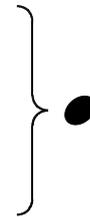


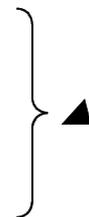
不器用な強さ

作詞 J'Soul (浅羽一)

隣に座った君に、僕は一瞬気付かなかったんだ
だって身にまとう雰囲気があまりにも、記憶の中の君と違ったから
『あれ、もしかして髪型を変えたからかな?』って思ったんだ
だけど君はとても静かな表情で、『変えてないよ』って首を振ったんだ
正直、女の子のアクセサリや髪型なんて
僕なんかには華やかなパズル
だけど今だけは分かったんだ、君はとても悲しげな表情
僕の記憶の中ではいつも、君は笑っていたのに
どれだけ明るい人だって、どんなに強い人でもね
時には誰にも言えない悲しみを持つ
笑いたくなきゃ、無理して笑う必要なんか無いんだよ
そしたらきっと君の傍にいる僕は
いつもと同じように、そっと背中を押してあげるから



隣で笑った君に、僕は戸惑うしかなかったんだ
どこが変だって言葉には出来ないけど、いつもと違って辛そうに見えた
『ねえ、今日は何か嫌なことでもあったの?』って思えたんだ
すると君はやけに明るい表情で、『何もないよ』って答えてきたんだ
ホントは女の子の喜ばせ方や気持ちなんて
僕なんかには複雑な迷路
だけど今だけは気付けたんだ、君はいつもと変わらない様子
でも今まで見てきた君とは決して重ならなかった
どれだけ楽しい時だって、どれだけ嬉しい時でもね
心に悲しみを隠した人もいるから
笑いたくなきゃ、無理して笑って欲しくなんか無いんだよ
鈍感な僕だけどそんな時だけは
何も聞かずにいつまでも君を守ってみせるから



涙こらえて笑う姿は美しいけど、そんな切なさは誰も望んでいないんだ

●繰り返し

▲繰り返し